

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月12日実施)	総合評価（3月24日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程  学習指導	自立と社会参加を目指し、児童・生徒の発達段階に応じた系統性のある教育課程の編成と授業への活用を進める。	① 学習指導要領に則って、発達段階に応じた系統性のある教育内容を考え実践する。  ②-1 ICT 機器活用の推進及び学習教材・授業例の充実を図る。  ②-2 ICT 機器の活用事例について、情報発信を進める。	①作成した「身につけた力」の内容表のブラッシュアップや校内研究で地域と協働した教育課程について検討していく。  ②-1 研修会を実施し、職員の理解を深めると共に、ICT 教材や授業例を共有し、授業改善につなげる。  ②-2 ICT 機器の活用事例について、ホームページや通信、授業参観等で情報を発信していく。	① 校内研究とも絡めながら、授業づくりに取り組むことができたか。  ②-1 職員対象の研修会を実施し、各学部で授業改善につなげることができたか。  ②-2 ICT 機器活用事例を職員間で共有すると共に、情報発信を進めることができたか。	① 校内研究の内容や神知研発表等で集約した意見と進路学習でのつきたい力を基に見直し、ブラッシュアップを行った。地域との関わりについても追加した。 ②-1 電子黒板研修会に多くの職員が参加し、授業で活用したり、自主的な研修会にも有志が参加したりしている。 ②-2 各学部それぞれ端末を利用している状態が日常的になりつつあり、ICT 機器を利活用した授業がかなり広まってきた。保護者には授業参観や面談で ICT の学びについて発信している。	① 内容表は指導案(児童生徒の実態)での活用ができた。大まかな発達の内容表のため新転任者に配付していきたい。細かいステップ表は各学部で発展できると良い。 ②-1 個別課題等で個人端末を活用する事例をもっと研修できると良い。  ②-2 情報発信については ICT 機器活用促進と共に、発信への意識も高めていきたい。	<学校運営協議会> 今年度は地域のいろいろな行事等に学校も参加し一緒に行うことができた。今後も協力していきたい。 カリキュラムマネジメントを行うのは教員であり、意識してしっかり行ってほしい。それが働き方改革にも繋がると考える。  <保護者アンケート> ①「社会参加を見据え、発達段階に応じた教育を受けられているか」に対し、90%の評価を得た。 ②「ICT 機器の活用が進み、学習教材や授業が充実したか」に対し、58%の評価。「わからない」が37%であった。	① 校内研究とも絡めながら各部門・学部で、地域とともにある学校を目指して、地域の資源を活用した授業づくりに取り組むことができた。部門・学部によって差はあるが、地域資源について整理したり、実践に落とし込んだりすることができた。今年新たにできた繋がりもあり、次年度の実践に繋げていく。 ② ICT 機器の活用やそのための職員対象の研修を実施し、授業での活用が進んできた。職員対象の研修会は、更に多くの教員が参加できるようになると良い。	① 地域との関わりについても追加された「身につけた力」の内容表は、それぞれの学部で新転任者への配付や細かなステップの改訂を行い、教員間での共通理解を図るツールとして活用していく。  ② 情報管理チームを中心に、各部門・学部のニーズも捉えながら研修内容は形態または方法を工夫し、より多くの教員が参加できる研修会を実践していく。また、授業での活用状況等ホームページや授業参観・面談等で積極的に情報を発信していく。
2	児童・生徒 指導・支援	障害や発達に関わる一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な教育支援を行う。	① 児童生徒が主体的に学ぶことができる学習環境を設定する。  ② 専門職等を活用した更なる支援体制の充実を図る。	① 子ども目線での教育環境整備の意識を定着させ、見やすさわかりやすさを一層推進する。  ②「チーム支援」を推進し、互いの専門性を生かした支援システムを構築する。	① 児童生徒が主体的に学ぶ学習環境を設定することができたか。  ② 専門職支援体制の充実を図ることができたか。	① 各学部で適した学習環境チェックシートを作成した。学期末、新学期の教室整備時に周知した。  ② 専門職、CO, 進路等と担任が細やかに情報共有をしながらチームで指導・支援にあたった。個別教育計画検討への参画や学部・PTA のニーズに応じて専門職を活用して研修会等を実施した。	① 定期的に学習環境チェックシートを活用していきながら見直しを図っていく。  ② 専門職等とのチーム支援は継続して取り組むと共に、PT, ST 以外の専門職との連携については、他グループ・チームの取組や評価について校内で共有し、校内全体のチーム支援につなげたい。	<学校運営協議会> 専門職の活用が多いことは素晴らしい。知的障害教育部門でも活用できている。 <保護者アンケート> ①「児童生徒が進んで学べる学習環境になっているか」に対し、84%の評価を得た。 ②「専門職のアドバイスを取り入れチームで支援できていると思うか」に対し、57%の評価。「わからない」が33%であった。	①児童生徒支援として学習環境のチェックシートを作成した。人権配慮も含めたものになっている。  ②学校全体として、専門職等を活用した支援体制を進めることができた。しかし、保護者にとっては見えにくいことであることも分かった。	①各学部でチェックシートを作成しているため、定期的に活用しながら見直しも図るよう教務グループで確認していく。  ②専門職等を活用した支援体制については、他グループ(チーム)とも連携して支援につなげていく。また、専門職の紹介等を保護者に具体的に発信していく。
3	進路指導・支援	児童生徒一人ひとりの生きる力を育むためのキャリア教育の充実を図る。	① 卒業後の社会生活を見据えた進路指導・支援について、職員研修を充実させる。  ② 保護者・地域等への進路指導情報発信の拡充を図る。	①「進路の手引き」の内容を見直したり、保護者説明会での内容を職員間でも共有したりする等、卒業後の生活を具体的に理解できるよう工夫した職員研修を行う。  ②「進路だより」や保護者対象の進路説明会等を活用し、部門・学部ごとの情報発信を充実させる。	①② 進路指導・支援について、研修や情報発信を進めることができたか。	①「進路の手引き」の見直しでは近隣の事業所情報などを盛り込み更新を行うことができた。事業所見学は計10か所実施。職員研修では進路指導や卒後の過ごし方についてテーマ別に計4回実施し、延べ120名以上の職員が参加した。 ②「進路だより」では近隣の新規事業所情報や保護者対象見学会の取組を紹介する等して、発行回数を増やすことができた。小中学部進路説明会では、座談会形式でニーズに合った情報提供ができた。	① 研修内容や事業所見学については、事前アンケートを把握した上で、見学先やテーマ設定を行うことが課題である。  ②各部門・学部と連携し、進路学習に関する取組について発信していきたい。事業所の情報提供は地域毎の情報量の違いが少なくなるよう情報収集・提供を行っていくことが課題である。	<学校運営協議会> 企業として、学校(分教室)で卒業後の話をすることができた。次年度はもっとやれることを協力したい。企業は進路担当との繋がりが多いが、担任や連携支援グループとの繋がりが良いと思う。  <保護者アンケート> 「進路だより」や面談・進路説明会等分かりやすかったか」に対し、84%の評価を得た。	① 職員対象の研修会を計画的に実施することができた。テーマ別に実施したが研修を受けて実際の指導に繋げることができたかについては、65%(職員)の評価にとどまった。  ②学部によって保護者のニーズを取り入れて情報発信できたことが、保護者の評価に繋がった。対して、職員からの評価は59%にとどまった。	① 今年度の実績をもとに、事前アンケート等行いながら、各部門・学部での研修、校内全体での研修と内容を工夫し、職員研修を充実させていく。  ② 保護者に向けては、今年度の実績を次年度にも繋げていく。地域毎の情報収集・提供については、課題意識をもって取り組むたい。職員に対しては、各部門・学部と連携した情報発信を充実させたい。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月12日実施)	総合評価（3月24日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	地域とともに、インクルーシブな社会の形成に向けたセンター的機能による発信と協働の充実を図る。	①職員一人ひとりがセンター的機能を担う意識の向上を図る。  ② 本校の特別支援教育のノウハウを発信する。	① 巡回相談等の情報を共有し、地域の学校の課題やニーズを知る等、地域を支援するための知識を得る。  ② 教育活動や教材教具・支援の手立て等巡回相談時やホームページで情報を発信する。また地域の学校のニーズを踏まえた巡回相談や研修会を実施する。	① 職員の意識向上を図ることができたか。  ② ホームページ等での情報発信やニーズを踏まえた巡回相談・研修会を実施することができたか。	① 年間を通して地域支援チームの取組の発信や研修会等チームを中心に校内全体で自校のセンター的機能について考える機会を設けることができた。  ② 校外の会議や研修会等でキャッチした地域のニーズに応じて、情報発信や巡回相談、研修会等を実施した。	① センター的機能に対する校内全体の意識を向上のためには、今年度のような取組を継続していく必要があると考える。今年度の取組や成果を見える形で残し、次年度以降に活用していけると良い。  ② 今年度同様、地域のニーズに応じた方法や体制で、巡回相談や研修を行ったり、必要な情報をいつでもキャッチできるように情報発信を工夫したりできると良い。	<学校運営協議会> コロナ禍も落ち着き学校間で訪問ができた。夏に開催された教材教具展を見学し、特別支援教育の専門性に触れたことは有益だった。  <保護者アンケート> 「支援だより」等の発行や授業・交流学习・作品展等を通して地域との相互理解が深まったと思うか」に対し76%の評価。	① 今年度は地域支援チームで情報共有会や研修会等を実施し、チーム員の意識向上に繋げることができた。校内全体の意識を向上・維持するためには、今年度のような取組を継続していく必要がある。  ② 夏の教材教具展や地域の支援級担任対象の研修会を開催したことは成果である。ホームページ等での情報発信については、必要な情報をすぐキャッチできるような工夫を考えたい。	① 今年度の取組や成果を見える形(例：Teams活用など)で残し、次年度以降に活用できるように整え、継続して取り組んでいく。  ② 今年度同様、地域の学校のニーズに応じた方法や体制で巡回相談や研修を行ったり、必要な情報をいつでも見れるような情報発信方法についてチームで検討したりしていく。
5	学校管理 学校運営	信頼される学校づくりの推進のため、安全で安心できる指導体制及び管理体制を構築する。	① 地域を意識した学校防災や避難訓練を計画・実施する。  ② 学校ホームページを活用し、校内体制と安全への取組を発信すると共に、地域と協働して安全安心な学校づくりに取り組む。  ③ 業務の整理や効率的な業務の遂行方法等を検討し、働き方改革を進める。	① 保護者も巻き込んだ訓練や地域と協働の訓練等何ができるか検討し計画を進める。  ② ホームページで日頃の学習活動や学校の取組を発信したり、地域からの情報を収集したりして、ホームページで紹介する等情報交換の場を設ける。  ③-1 各グループ・部門・学部で業務整理、効率化について継続して進めていく。 ③-2 新体制での分掌業務を行いながら、業務の効率化・平準化を検証していく。	① 新たな訓練のあり方等検討し、計画を進めることができたか。  ② ホームページを有効に活用し、情報発信することができたか。  ③-1 各グループ・部門・学部で考え、進めることができたか。  ③-2 新体制での分掌業務の効率・平準化について検証することができたか。	① 新たな取組として、夏季休業中に車椅子引上げ訓練やDIG研修にPTA役員・自治会の方数名が参加した。また、火災避難訓練では、PTA 役員の他バス介助員の参加も呼びかけ、学校関係者全体で協働する訓練が実施できた。  ② 「かなよう日記」の更新については、各学部の行事や生活の様子を定期的に掲載することができた。  ③-1 グループや部門・学部ごとに整理する業務を決めて、進めることはできた。  ③-2 今年度運営しながら総括教諭を中心に分掌業務の効率・平準化について検討した。	① 今回実施しての反省を活かして、地域を意識した避難訓練を今後も継続していく。  ② 学部によって掲載回数に偏りがあったので、分教室含め計画的に掲載できるよう連携して取り組む。  ③-1 それぞれ着手はしているが、結果としては見えにくく、職員全体の満足度は低い結果となっている。次年度も各部署で業務整理を意識し、出来る事を考えて進めていく。  ③-2 引続き分掌業務の見直し(調整)を進め、次年度の業務分担に取り入れ、業務の効率・平準化を進めていく。	<学校運営協議会> これから自治会の防災訓練(放水訓練)を見学・参加予定もあり、今後も協力していきたい。  教員は忙しそうだ。働き方改革と強いリーダーシップはパワーハラとも捉えかねない。保護者にはお願いするところは保護者が行うこととして、学校でできることを絞っても良いかもしれない。  <保護者アンケート> ①「保護者と協働して学校防災や避難訓練を実施していると思うか」に対し79%の評価。 ②学校の取組等の情報が、お便りやホームページ等で迅速に分かりやすく提供されているか」に対し87%の評価を得た。	① 地域の方や保護者も参加しての研修・訓練が実施できたことは成果である。今後も内容を工夫しながら継続していき、教職員はもとより保護者の防災への意識も高められるよう進めていきたい。  ② ホームページでの情報発信は、学習活動の様子以外にPTA活動の紹介等新たなことに取り組むことができた。地域との繋がり等も紹介していきたい。  ③ 業務整理等は各部門・学部でそれぞれ進めることはできたが、それに対する職員全体の満足度は低い。多様な働き方がある中での業務の分担や遂行方法等引続き検討していく必要がある。	① 地域とも連携しながら、引続き本校の防災のあり方を考えていく。保護者への情報発信も意識的に実行できるよう、総括教諭や安全防災チームと考えていく。  ② 更なるホームページの有効活用に向け、教職員への協力依頼や積極的な活用を進めていく。また本校のホームページについて、年度始めに保護者に紹介する等機会がある時に意識して周知していく。  ③ 多様な働き方がある中で職員への業務分担の考え方について全体に周知し、各部門・学部・グループで年間を通しての業務分担を考え、職員全体で業務に取り組めるシステムを作っていく。